

令和6年度 幸崎小学校 小中一貫教育

1 小中一貫教育目標

「未来を拓く」

R 6 中学校教育目標 「自ら学ぶ、心豊かな生徒の育成」
R 6 小学校教育目標 「自ら伸びる ともに伸びる 子どもの育成」

2 目指す幼児・児童・生徒と研究仮説

<中学校（15の春）>

社会貢献につながる夢や志をもち、自分や周りを大切にしながら、目標に向けて自ら考え行動する生徒

<小学校（6年生の姿）>

夢や志をもち、自分や友達によさを認めて関わり合いながら、目標に向けて自ら考え行動する児童

上記の児童・生徒の姿を目指した研究仮説



親和性の高い集団づくりと考える姿が見える授業づくりを通して「幸崎思考力」を育むことにより、学力を向上することができるであろう。

3 育成する資質・能力

◎「幸崎思考力」とは・・・

一人一人が課題意識・目的意識をもって他者と話し合い、自ら考えたことを比較したり吟味したりして統合し、よりよい解や新しい知識を創り出し表現する力

「幸崎思考力」を構成する4つの要素

①思考しようとする意欲 ②思考に向かう態度 ③思考のベクトル ④思考を統合する力

幸崎思考力

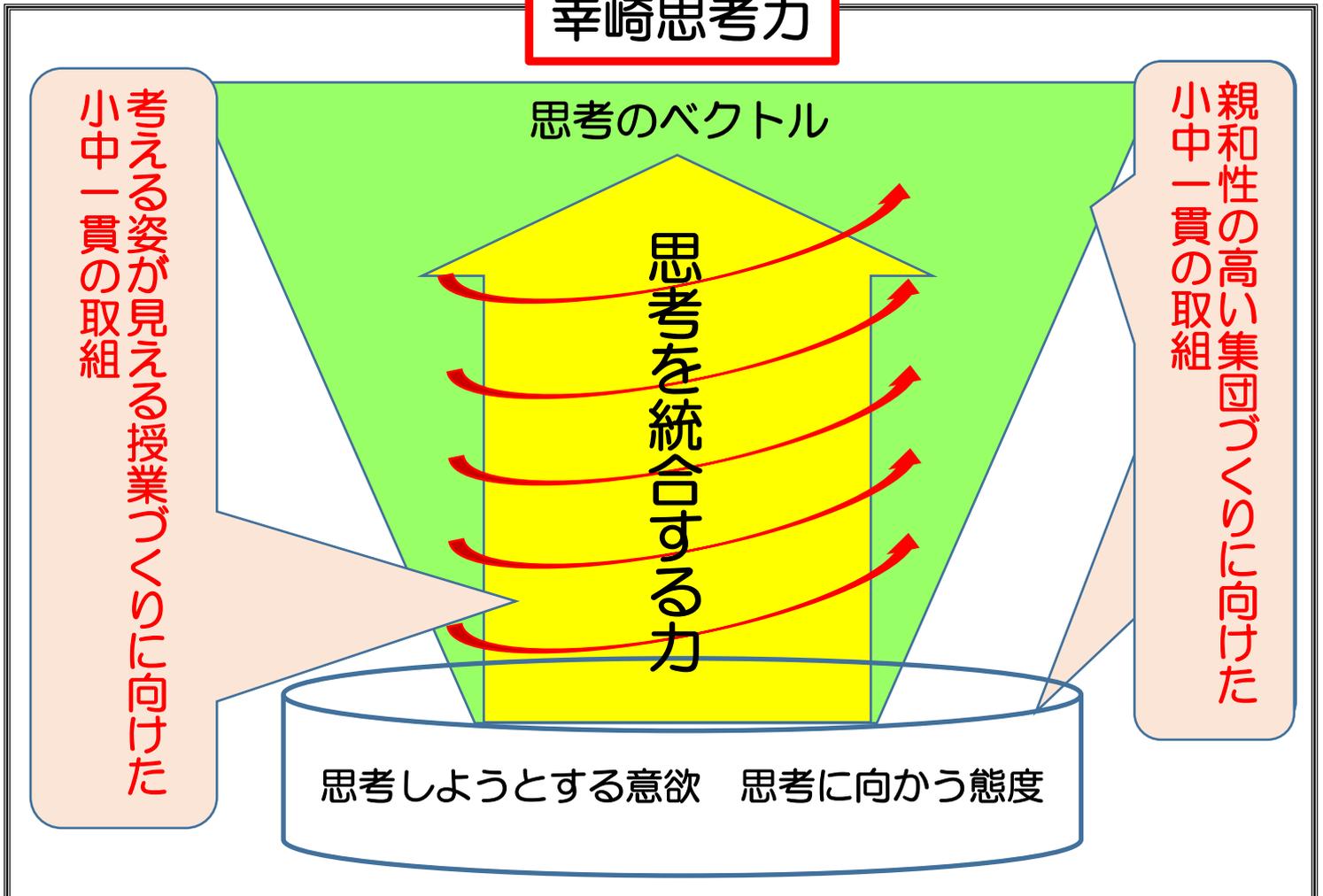
思考のベクトル

思考を統合する力

思考しようとする意欲 思考に向かう態度

小中一貫の取組
考える姿が見える授業づくりに向けた

親和性の高い集団づくりに向けた
小中一貫の取組



	4つの構成要素	具体的な目指す子どもの姿
幸 崎 思 考 力	①思考しようとする意欲	自ら問いをもち、自ら考えようとしている
	②思考に向かう態度	どんな課題にも本気で向き合おうとしている
	③思考のベクトル	相手意識・目的意識をもっている 自分→学級→学校→社会へ
	④思考を統合する力	小学校：5つの思考スキル活用して、自分の考えを組み立て表現することができる。 (順序だてる・比べる・関係づける・予想する・評価する) 中学校：6つの思考スキルを横断的に活用していることを認識することができる。 (比較する・多面的に見る・関連付ける・分類する・評価する・構造化する)

4 小中一貫の取組

(1) 親和性の高い集団づくりに向けた3つの取組 (子どもたちの主体的・自治的なPDCAを通して)

- ①「学級チャレンジ」・・・学級目標の設定と評価活動
- ②「幸崎っ子10のすがた」・・・めざす児童の姿を共有する
- ③「忘れ物0チャレンジ」・・・宿題・学習用具の忘れ物を0にする

☆①～③については、小中全校統一した評価の方法で自己評価を行う。そして学級集計を行い、1年生～中3までの結果を継続的に掲示して見える化する。



**目標に向けて仲間と共に
本気で考えることができる集団へ！**

幸崎っ子 10のすがた

- ・といをもつ
- ・ルールを守って人を大切にする
- ・本気パワーで学びあう
- ・挑戦する
- ・幸崎6で考える
- ・最後までやり切る
- ・目的に合った思考ツールを選ぶ
- ・振り返りができる
- ・クロームブックを使いこなす
- ・自分の気持ちを伝えられる

(2) 考える姿が見える授業づくりに向けた3つの取組

- ①「思考スキルの視覚化」・・・全ての授業において意図的に活用する。
- ②「思考スキルの自己評価」・・・OPPを用いて年間を通して振り返りを行う。
- ③「基礎学力の向上」・・・朝学、帯タイム、授業始め等を活用した漢字・計算・音読・視写学習。

☆①については、小中全校統一した指導案を作成し、本時の展開の中に本時で活用する「思考スキル」と「引き出す子どもの姿」について記述する。

②については、小中全校統一した評価の方法で自己評価を行う。

③については、「幸崎検定テスト」を作成し、自主的に繰り返し学習できるようにする。



**一人一人が思考スキルを活用して、自分の
考えを作り表現できるように！**

順序立てる
まず はじめに
次に 最後に

比べる
同じところは
ちがうところは

関係付ける
～だから
～になる

予想する
もし～なら

評価する
まとめると

5 検証方法

- ①次年度 NRT 全学年 偏差値平均58以上
← 学期末テスト 学年平均85点以上
- ②3学期実施 H²QU 全学年 親和性の高い学級集団へ 全児童・生徒：学級生活満足群へ
実施時期 第1回目4月 第2回目7月 第3回目12月
- ③児童・生徒アンケート (意欲、態度、方向性、思考スキルについて) 肯定的評価90%以上